

阪神大震災の経験から

大災害発生から時間を追って被災者の状況を再現しながら、私たちにできる救援活動について考えてみます。

①災害発生から三日目まで

突然の災害で家族や肉親が死に、家を失った被害者が茫然自失の状態です。避難所に集まります。ガス・水道・電気は止まり、夜は真っ暗で暖も取れない状況です。

しかし、この時期は役所や公共機関も全く救援に動けない状態でした。瓦礫の下にはまだ多くの人が閉じ込められていました。避難所は、空腹・寒さ・暗闇・トイレの不自由さとの戦いでした。

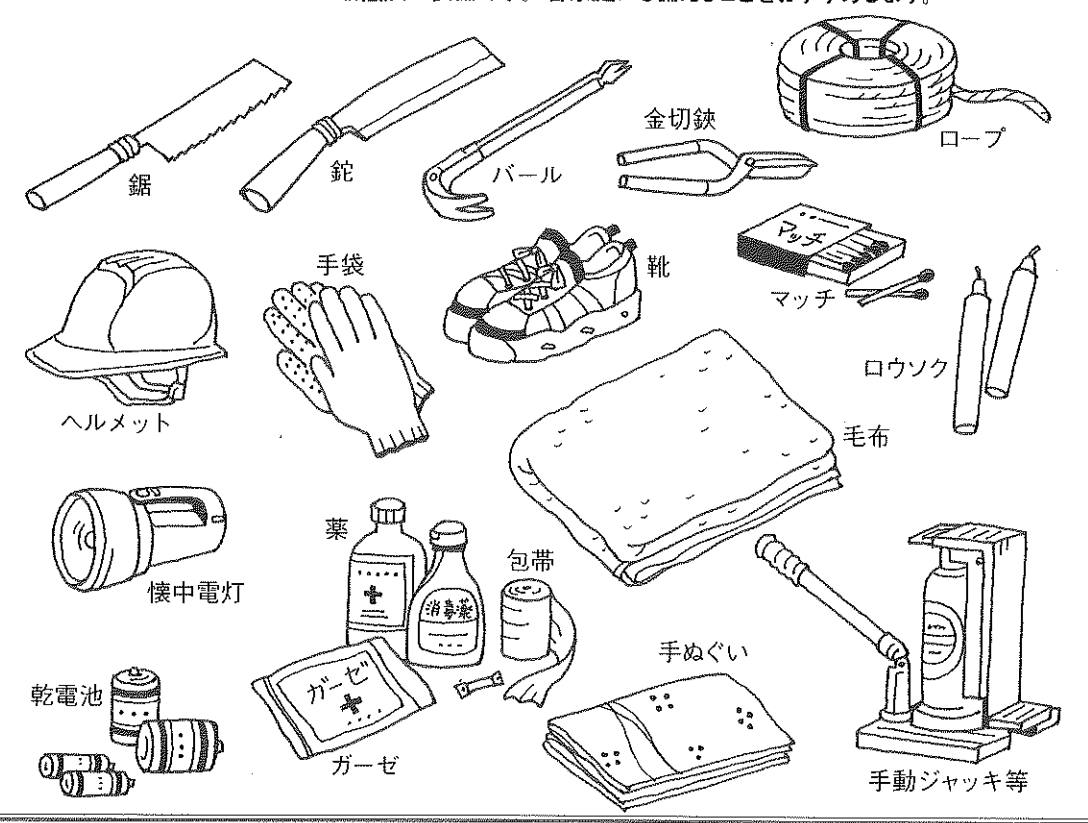
そのような現場に救援隊が現地に入りできることは、

- 行方不明者捜索 ● 救出活動
- 避難所の人々に対して緊急援助

初期救援活動上の必要事項

- できるならば、災害発生と同時に即日現地入りすることが望ましい。即日が無理ならば三日目までに現地に入りたい。なぜならば、この時期が最も被災者が苦しい時期だからである。
 - 災害発生と同時に該当地区の詳細地図を数冊購入する。
 - 災害発生と同時に使用車両の通行できる車両許可を警察から得る。
 - ボランティアに出る者に保険をかける。
 - 持ち物の中に日蓮宗寺院名簿は必ず入れる。拠点確保と被害状況の確認に大いに役立つ。
 - 責任の所在を明らかにして、被災者とのコミュニケーションを保つためにも必ず全員に所属名と名前を入れたネームプレート所持する。団体名の書かれた救援旗をできるだけ車両につける。規制区域通行時にたいへん有効である。
 - 各教区から日蓮宗伝道車で被災地に乗り入れ有効に使う。宗門からガソリン代の補助も出る。何より被災地の寺院や檀信徒を力づける効果がある。
 - 最初に現地に入るチームは、寝泊りから食料に至るまで、完全に自己完結型でなければならない。被災者や避難所、被災地に一切の迷惑を掛けない仕事をする必要がある。後続のチームはできる限り固定的拠点を確保する。
 - 被災地において救援チームと被災地外との通信手段を確保する。神戸では携帯電話が各ボランティア組織をつなぐ生命線だった
- が、携帯電話が爆発的に普及した現在、当時のようにはいかない。複数の携帯電話とともにパーソナル無線やCB無線等のバックアップが必要。
 - ベース・テントの早期設営による初期活動拠点の確保と初期現地情報収集の徹底。市役所等現地の対策本部や報道機関の詰め所を回り情報の収集と、必要ならばプレスリリース(報道関係への発表)を適宜行ない呼びかけを行なう。
 - 1団体において後方支援と交代要員を考えて1チーム5名×3チームの15名は必要
 - 現地に入っている他のNGOやボランティアグループとの連絡を密にする。セクト意識や自分たちだけでという気持ちはマイナスにしかならない。日頃より他の団体と連絡が取れる状態であればベストである。
 - 日頃より少しでも社会奉仕の活動に関わっていると動きがスムーズになる。
 - 突発的な災害が起きててもすぐに対応できるように、少なくとも1,000~2,000人分の炊き出しの用具はグループの各寺院に分散配備しておくことよ。
 - 自分が住んでいる地域が災害による被災をした場合、寺院は外から来る救援活動がスムーズに行なえるよう、情報や場所の提供に努める。
 - 発生当日の生存救助率は7割、以降は急激に低下、4日以降は1割を切っている。救出活動ははじめの3日、発生直後72時間が勝負である。

救助工具・医療品 「あのとき、のこぎり1本あれば助けられたのに」とならないための最低限の装備です。各家庭にも備えることをおすすめします。



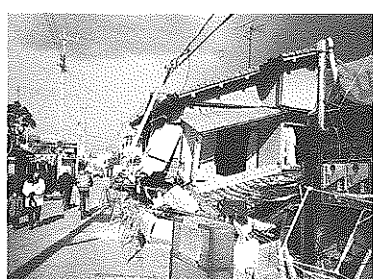
新潟 妙栄寺 水たまりの境内



小千谷 崩壊家屋



水没した新潟妙栄寺



神戸 崩れた街並



日蓮宗伝道車



神戸 つぶれた家

②四日目から十日間ほど

まだまだ町の中が騒然としていて、警察・消防や自衛隊の緊急車両やヘリコプターが飛びまわり、行方不明者の救出活動が必死に続けられています。同時に多くの遺体が、人の避難していない体育館や公共施設、またお寺に次々と運び込まれ安置されます。そこに、身内を失った方々が、家族の遺体を捜しに訪れ、言葉も出ない状況です。被害が少なかった地域では、最初に電気が復旧し、次にほんの一部の幸運な地域で水道が使えるようになります。しかし、まだ十分に食事ができない人がほとんどでした。

この頃になると、被害の少なかつた火葬場に身元の確認された遺体が運ばれ、茶毘に付されるようになります。神戸の火葬場だけでは間に合わず、大阪や京都、中にはその他の地域にヘリコプターで搬送され茶毘に付される遺体もありました。

また、この頃から被災した家への泥棒犯罪が増え、被災住民は「自警団」を組織し、深夜の見回り等が行なわれました。

行政の食糧配給も始まり、一日二食ほどが配給されましたが、まだ不十分でした。

ボランティアは次々と現地に入り、活動を開始しました。

私たちにできることは

- 遺体の搬送
- 遺体安置所における消極的な相談やアドバイス
- 火葬場で希望者に対する回向
- パンやおむすびではない温かいご飯や味噌汁の炊き出し
- 避難所の避難者数の把握、避難所のコーディネートとしての働き
- 行政とのパイプ役
- 各地の公園等、複数の避難所の状況把握と炊き出し

炊き出し用装備 ワゴン車1台に搭載可能な装備です。

ブルーシート10枚
発電機
拡声器
ポリバケツ(90L)
屋外用照明
水用ポリタンク(20L)
ラップ
軍手
ロープ
紙コップ
割箸
プラスチックざる 径45cm
懐中電灯
トランシーバー
懐中電灯
電池
携帯ラジオ
まな板
包丁
風除け
なべ(径42cm)
しゃもじ
皮むき器
やかん(10L)
ステンレスボール
ステンレスざる
ガス炊飯器(1升炊)2台
LPガスボンベ20kg 2本
プロパン用コンロ 2台
カセットコンロ&ボンベ
おたま

炊き出しレシピ

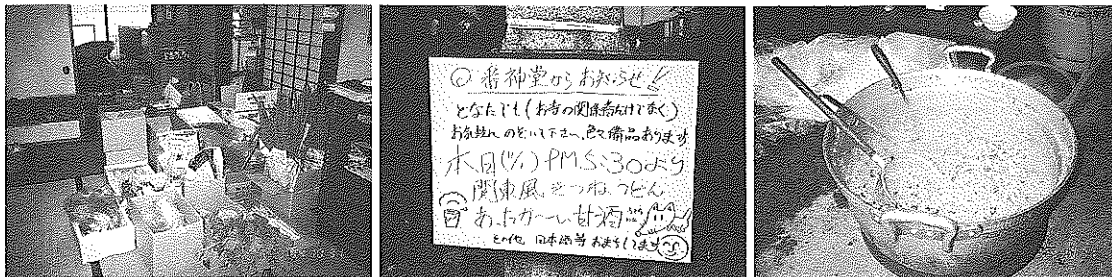
被災してからの数日は行政機関は動くことができません。炊き出しができる準備をしておく、寺の周囲の方々に暖かい食事を提供し、寺を災害救援の拠点とすることが可能になります。

カレーライス(300人分)

- 作業時間………10人で2時間くらい
- コスト………約4万5千円(プロパンガス代含む)
- 材料………ジャガイモ10kg、ニンジン8kg、タマネギ12kg、豚スライス肉8kg、カレールー6kg、水36ℓ、無洗米30kg、福神漬け8kg
- つくり方

- 1** 野菜の皮をむく
- 2** なべに野菜と肉を入れ30分くらい煮込む。
- 3** ご飯を炊く
- 4** なべにルーを入れる

◆イベントなどで実践を重ねると役に立ちます。◆他に鍋ひとつでできるメニューに豚汁、ちゃんこ鍋などがあります。◆炊出しが長引いてくると、現地で調達できる食材や差し入れされた食材を自由な発想で調理することが要求されます。



炊出し 食材

炊出し 看板

炊出し 雑炊



小千谷 炊出し準備

神戸 炊出し準備

神戸 炊出し作業

③その後の一ヶ月

被災した人と被災を免れた人の違いがハッキリ現れました。

被災を免れた人は、ぼつりぼつりと開いた商店から食糧や必要品を買うことができるようになり、落着きを取り戻し始めました。

被災した人々はプライバシーを保つことができない体育館や学校の教室、または公園にテントやブルーシートを張って雨露をしのぐ生活をしています。

学校や大きな避難所には食料や生活用品が届きましたが、公園や空き地にいる人々のところには物資は届きません。多くのボランティアは、そのフォローに追われていました。

各避難所では、医療ケアとともに精神面でのカウンセリングの必要性が叫ばれました。また、入浴の要望がたくさんありました。

炊き出し活動も避難所・公園を問わずさまざまな団体が行なっていました。

被災者のなかでも、とりわけ身体障害者は弱者です。たとえば、視覚や聴覚に障害のある人は、充分な情報を得ることができず、取り残されてしまいます。阪神淡路大震災の際には障害者ケア専門のボランティア組織が活躍し、家に取り残された障害者を丹念に探し出し援助しました。また、高齢者や乳幼児を抱えた母親等も重点的なケアの対象者です。私たちにできることは

●引き続き各地の避難所や公園において暖かい食べ物の炊き出し
●避難者に何が不足して、何が必要かをチェックし、継続的に補充する。

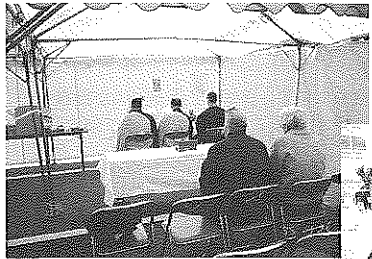
●自分たちのグループがベースとする避難所ではできるだけ目立たぬように、避難者の状況把握に努め、必要があれば相談を受けられるような体制をつくる。
なごです。

被災者の声(岩波新書『神戸発 阪神大震災以後』より)

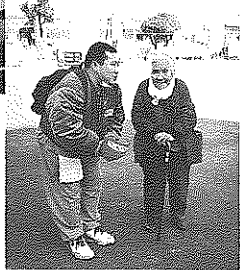
- 「炊事場がないものだから、朝晩の給食には感謝しています。ぜいたくを言うようで申しわけありませんが、コロッケ、ハンバーグなど若向きのおかずは年寄りには辛いようです。簡単な炊事場をつくっていただければ、ある程度のことは自分たちのできるので、簡易炊事場をお願いしましたが、いまだに…」
- 「この講堂でも200人が寝起きしています。一番こたえるのは全部見通して、プライバシーがないこと。下着の取替え、朝晩の食事、すべて他人の目を気にしなければなりません。若い夫婦は外泊するのさえ気を使っているようです」
- 「勤めから帰ってくると教室の臭気がひどいんです。屋根のある学校の方が安心だとテント村から移ってきた人が「とても辛抱できない」と三日で戻っていきました」
- 「最近子供たちも汲み取り便所に慣れ、便秘も減りました。困るのは気温があがって臭気がひどくなったこと。それぞれ知恵を働かせて、駅や学校、会社のトイレを利用していますが、夜間や休日は特に大変ですね」

民間ボランティアの救援活動

被災地には、民間ボランティアでなければできない仕事がたくさんあります。



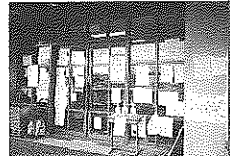
読経ボランティア



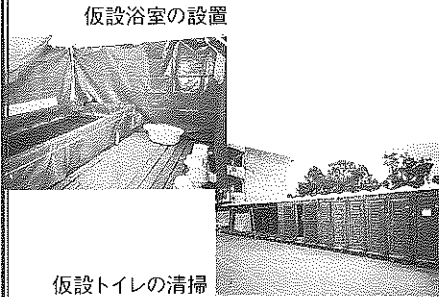
被災者の声を聞く



被災建物等の片付け



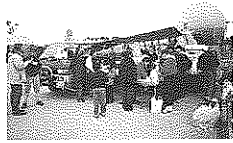
掲示板・伝言板の設置



仮設浴室の設置



支援物資の仕分け・配達



小規模避難所での炊出し



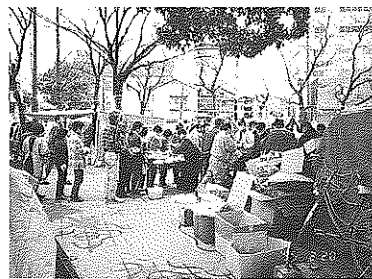
小千代 被災地の子どもたち



炊出し 家族で食事



炊出し風景



神戸 公園の避難所



神戸 避難所 テント村



神戸 小学校の避難所

④半年目くらいまで

発生から二ヶ月を越える頃から、炊き出しの必要性が、極めて少なくなってきました。外部の団体も、被災者を元気づける催しやサービス等が多くなります。

仮設住宅が次々と建設されましたが、全ての被災者の入居はままならず、被災者の疲労とストレスは減ることはありません。

六月頃には、各地の公園に展開していた個人のボランティアも、被災者の自立を促すという見地から撤収が多くなりました。

私たちにできることは

●腰を据えてここまでできたならば、さらにベースとした避難所のコーディネートが続ける。

●被災者が抱える悩みが千差万別になってくるので、できる範囲で対応する。

●仮設住宅への引越しの手伝い

●仮設住宅入居者の自治組織確立へのサポート などです。

⑤それ以降

夏以降には仮設住宅の供給が増え、入居する人が増えましたが、立地が悪いかと避難所に居続ける人も大勢いました。

また、仮設住宅に移ったものの体調を崩したり、精神面で追い込まれて自殺したり、老人の孤独死等の問題が次々に明るみに出てきました。それに対応するボランティアの活動がたいへん重要になり今日にいたっています。

被災地域が、それぞれの自坊に近い地域でなければ常駐はできません。ただし、仏教者がアイデンティティを持ってボランティア活動をするときには、炊き出し等の世俗的活動はあくまでも、緊急的活動です。本来はこの段階から、それぞれの被災者が独立した生活に戻るまで、精神的に支えていくことがその仕事となると思います。地理的に近い地域の仏教者の活動はここからはじまらなければなりません。

災害時のネットワーク

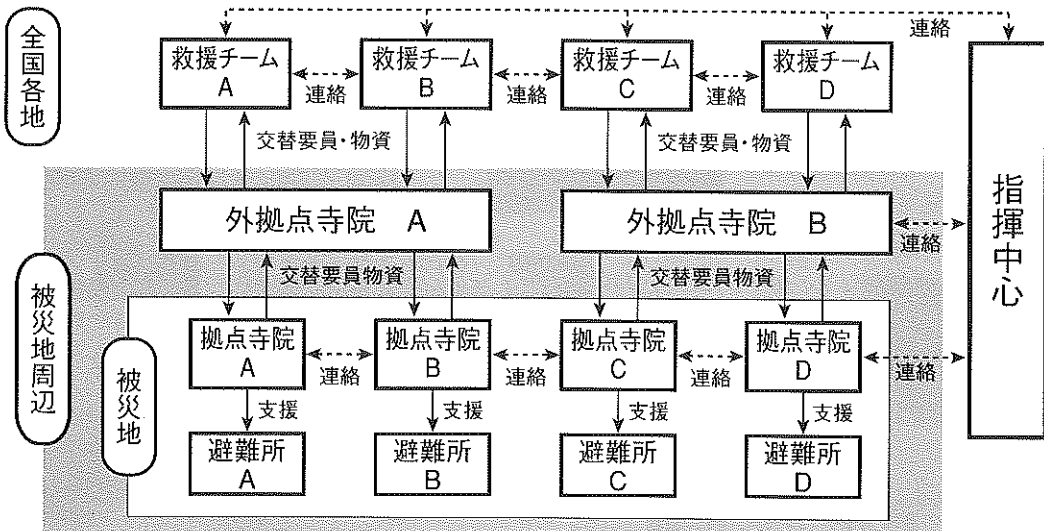
日蓮宗ボランティアネットワークに加盟している団体は、救援活動に関して共通の認識を持つに至って、個々の力量や経験もわからない状況です。そこで現状で考えられることは、

- ①お互いのチームが個々に被災地で活動する上での情報の共有化
- ②現地にて活動を開始した段階での協力（人的やりくり、救援物資や資材・機材の相互利用、輸送協力等）

③被災地および周辺地域の活動拠点となる寺院確保のための相互協力

等ではないかと考えられます。そして、各チームが連携し、支持・指揮系統を一元化することによって、より効率的な活動ができるはずです。

以下に行動の概念図と、具体的活動内容を示します。



災害救援の心得

- 災害発生と同時に各地より初期救援・調査チームが派遣される。
- 各チームは被災地入りしたら、学校・公園等の避難所に水・食料等の初期救援物資を下ろす。必要があれば被災者の救出活動に協力しつつ、被災状況の調査をし、それぞれのホームベースの報告する。
- 各ホームベースは情報収集に努め、各地のホームベースと連絡を取り合いながら、各派遣チームの動きを掌握する。
- 派遣チームは他の派遣チームとのコンタクトをとりつつ、引き続き救助・炊出し活動を続ける。この間、被災地域の本宗寺院を調査し、被災が軽く短期的(2~4週間)の救援活動に場所を提供いただける寺院を確保する。
- 各ホームベースは、派遣した初期救援チームの交代要員と、現地から報告の被災状況

- にあわせて新たに救援物資を整え、最初の派遣から一週間以内に出発させる。
- 同時に被災地の外側の地域に、救援活動の二次拠点となる寺院を確保すべく、人脈等をフルに行使して努力をする。
- このように被災地拠点の寺院と外側の二次拠点の寺院が確保できれば、後は派遣する救援チームメンバーのローテーションを繰り返すことになる。
- 活動拠点として寺院を確保する理由は、第一に活動拠点がなければまとまった救援活動ができない(キャンプ生活では自分たちの世話を追われてしまう)、第二に、お寺はそうに役立つものであり、役に立って欲しいという願いもある。お寺が何もしなければ地域が復興した時に信頼されないものになってしまう。



妙栄寺 新潟地元青年会



小千谷 番神堂食堂



妙栄寺 東京南部社会活動部会



神戸 仏教国際協力ネットワーク



神戸 ボランティア読経所



神戸 岡山立正青年会チーム